

足利赤十字病院神経精神科を受診された患者様へ

当院では下記の臨床研究を実施しております。本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせください。

研究課題名	治療可能な認知症を鑑別するために有効な臨床所見（後視的研究）
当院の研究責任者	船山道隆（神経精神科）
他の研究機関および各施設の研究責任者	なし
本研究の目的	本研究の目的は、治療可能な認知症を鑑別する際に役立つ所見を見出すことです。認知症を診る上で最も重要なことは、治療可能な認知症を鑑別することです。神経梅毒や肝性脳症などの身体疾患やうつ病などの精神疾患がこれに当たり、適切な治療をすることで患者様の予後は大幅に改善します。しかし、実際の臨床では変性疾患ではない病気が認知症と誤診されることがあります。誤診される個別の疾患はすでに報告されていますが、どのような所見（記憶障害の有無、進行の速さ、年齢など）が治療可能な認知症を見分ける際に有効であるのかといった臨床的な問題に関しては、十分に明らかにはなっていません。本研究では、治療可能な認知症を鑑別する際に役立つ所見を明らかにすることに焦点を当てています。
調査データの対象と該当期間	2014年10月から2024年4月までの間に足利赤十字病院認知症疾患センターに初診として受診した患者様776名。
研究の方法	電子カルテから、年齢、性別、既往歴、発症からの経過年数、認知症の重症度(Clinical Dementia Rating)、認知機能(Mini-Mental State Examination および改訂版長谷川式簡易知能評価スケール)、身体機能(歩行可能か否か、パーキンソン症状の有無)、記憶障害の有無、精神症状、MRI ないしは CT 所見、必要時に行い診断に結び付いた血液検査や髄液検査、最終診断名を抽出する。その上で、治療可能な認知症と関連する要因について、ロジスティック回帰分析を用いて求めます。
個人情報の取り扱い	利用する情報から患者様を直接特定できる個人情報は削除しています。また研究成果は学会発表や論文を予定していますが、その際も患者様を直接特定できない形式となっています。データ自体も学術誌での報告後に破棄します。
本研究の資金、利益相反	ありません。
お問い合わせ先	電話 0284-21-0121 担当者：神経精神科 船山道隆